



3/13
(金)

おにぎり200個を子どもたちに無償提供 地域とつながるファミリーマート

3月13日、町内のコンビニエンスストア・ファミリーマート2店舗で児童を対象に、おにぎり200個の無償提供が行われました。

新型コロナウイルスの影響で、子どもの昼食作りに貢献したいとの思いから、鷹巣と指江の両店舗が実施。衛生面を考えた上でのおにぎりとなり、オーナーの古田義富さんは「おにぎりをみんなで食べたという行事のように捉えてもらえれば」と話しました。

子どもたちは、今回のおにぎりを大いに喜び、手作りの感謝状を作成。ファミリーマート鷹巣店へ感謝状が贈られ、店内のレジの壁に飾られていました。



平尾児童クラブでの受け渡しの様子

3/26
(木)

町に書を寄贈 ふるさとの思い込め

福ノ浦出身の須納瀬セツヨさん(鹿児島市)が3月26日、役場を訪れ、自筆の書を寄贈しました。

寄贈されたものは第7回峰友会書展に出展された作品で、「令和」の出展元となった『万葉集』の『梅花の歌32首』の序文の一節が書かれています。

須納瀬さんは「元号が令和になり、万葉集南限の地であるふるさと長島をたくさんの人に知ってほしいとの思いで書いた」と話しました。

今回贈られた作品は町文化ホール内に飾られています。



自筆の書を寄贈した須納瀬さん(写真右)

3/25
(水)

川床サロンが手作りマスク寄贈 予防に役立てたい

3月25日、川床ふれあい・いきいきサロンが町保健福祉センターに手作りのマスク50枚を寄贈しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響による市販品の品薄を知り、マスクが手に入らない町内のお年寄りなどを心配した同サロンの川下真知子代表が発案。材料は小売店やインターネットで仕入れ、有志3人とともに5日間かけて製作しました。

川下代表は「外出時の予防に使用していただければ」と、役立てたい思いを話しました。

マスクは同センターを利用する高齢者や子育て世代の親子に配布される予定です。



思いを込めた手作りマスクを手渡す同サロンの有志